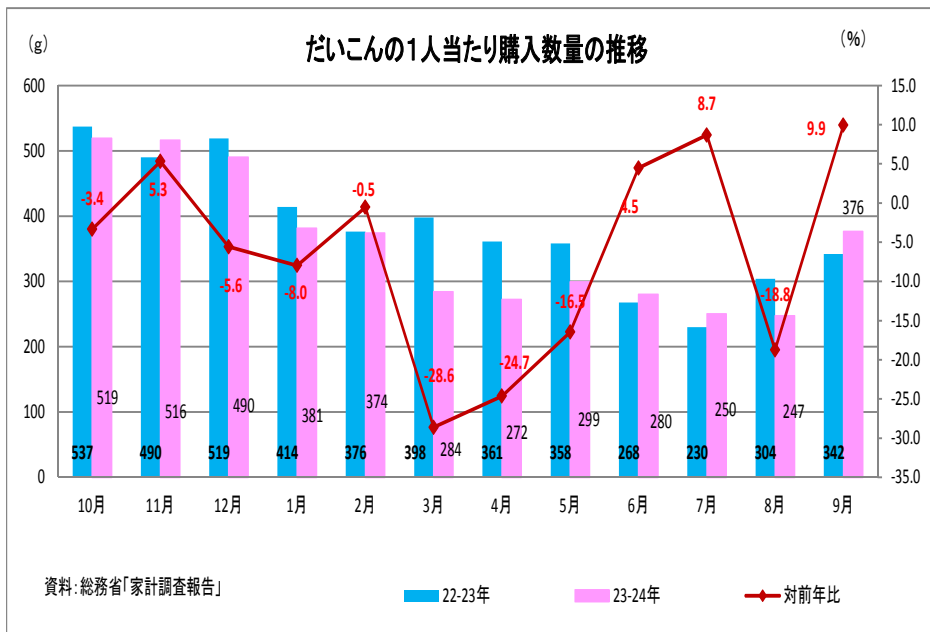
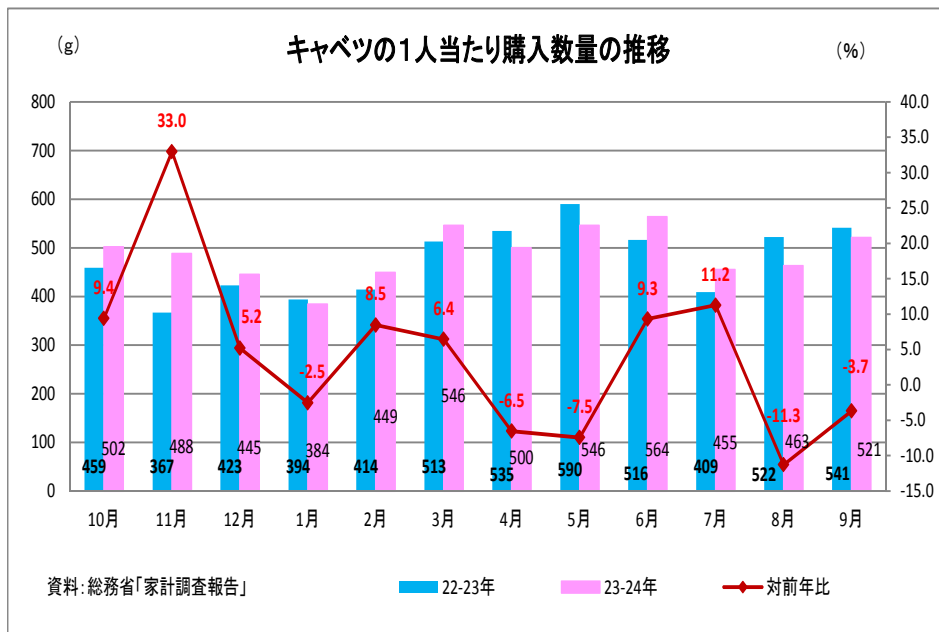
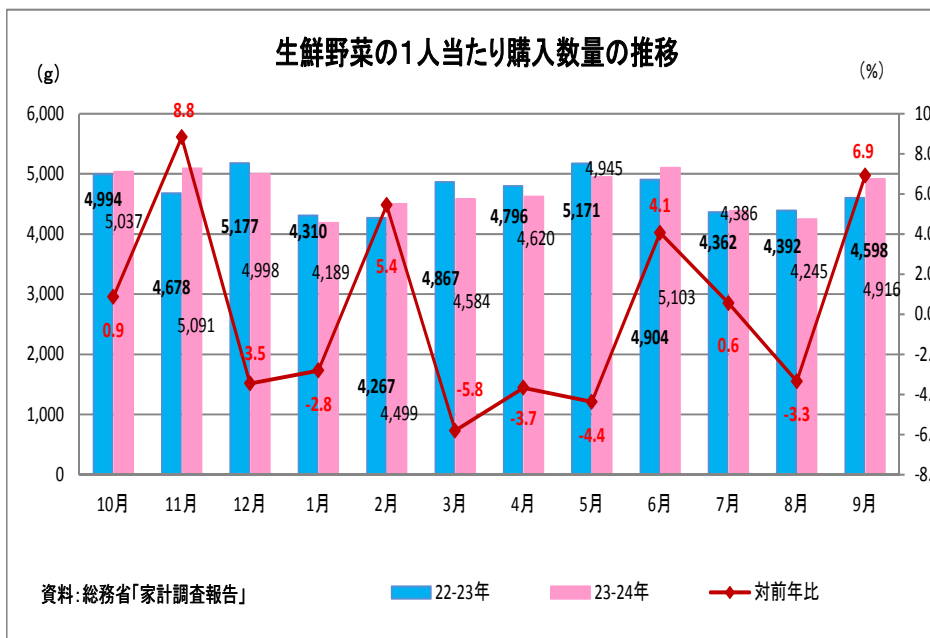


野菜の消費関連資料

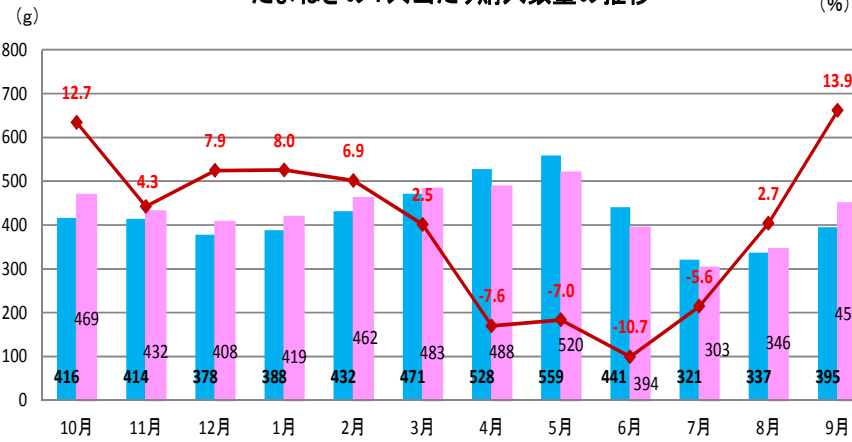
1 1人当たり購入数量の推移

・生鮮野菜全体の購入数量は、1～6月に低温や曇天の影響により高値となったことに加え、8月は猛暑により根菜類と葉茎菜類の消費が減退したことから、1月以降、2月、6月、7月及び9月を除いて前年を下回って推移。

・2月及び6月は前年が低温・少雨であったこと、また、9月は前年がレタス及びはくさいに病気が発生した影響により、高値で購入数量が少なかったことから、前年を上回った。



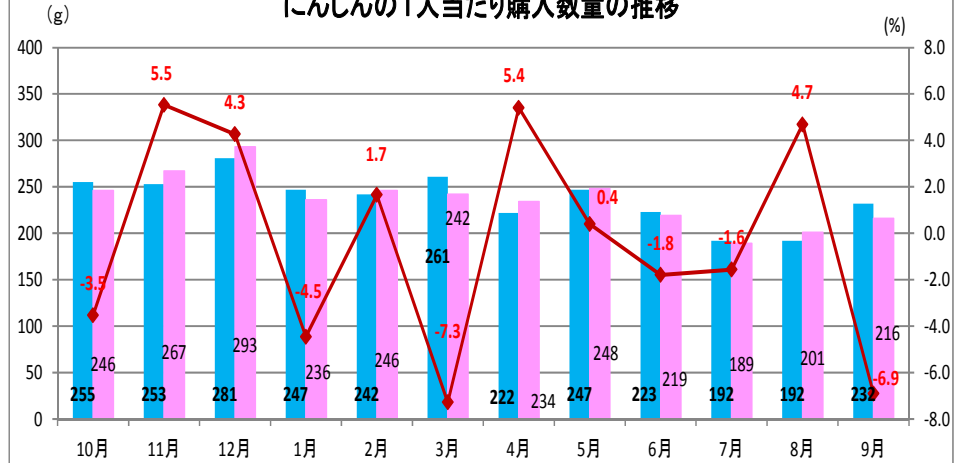
たまねぎの1人当たり購入数量の推移



資料:総務省「家計調査報告」

■ 22-23年 ■ 23-24年 ◆ 対前年比

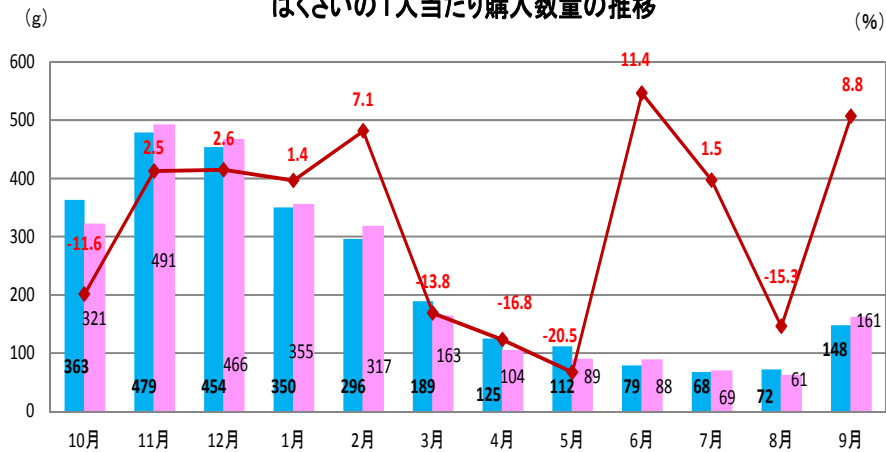
にんじんの1人当たり購入数量の推移



資料:総務省「家計調査報告」

■ 22-23年 ■ 23-24年 ◆ 対前年比

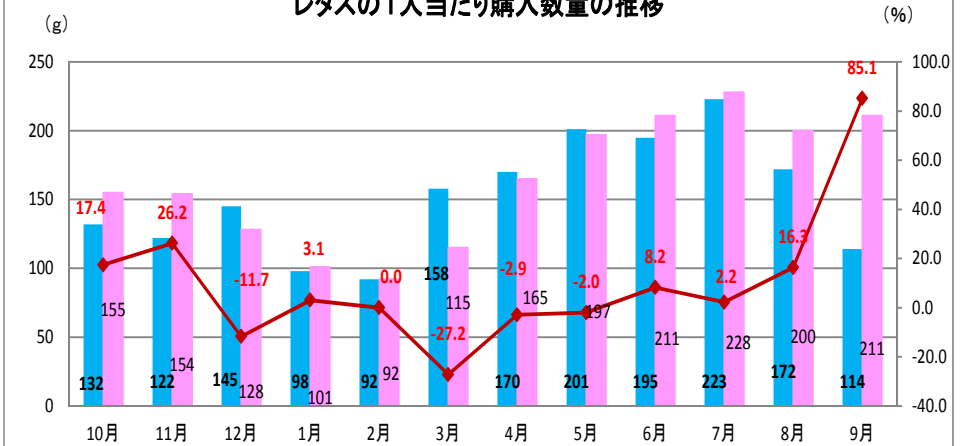
はくさいの1人当たり購入数量の推移



資料:総務省「家計調査報告」

■ 22-23年 ■ 23-24年 ◆ 対前年比

レタスの1人当たり購入数量の推移



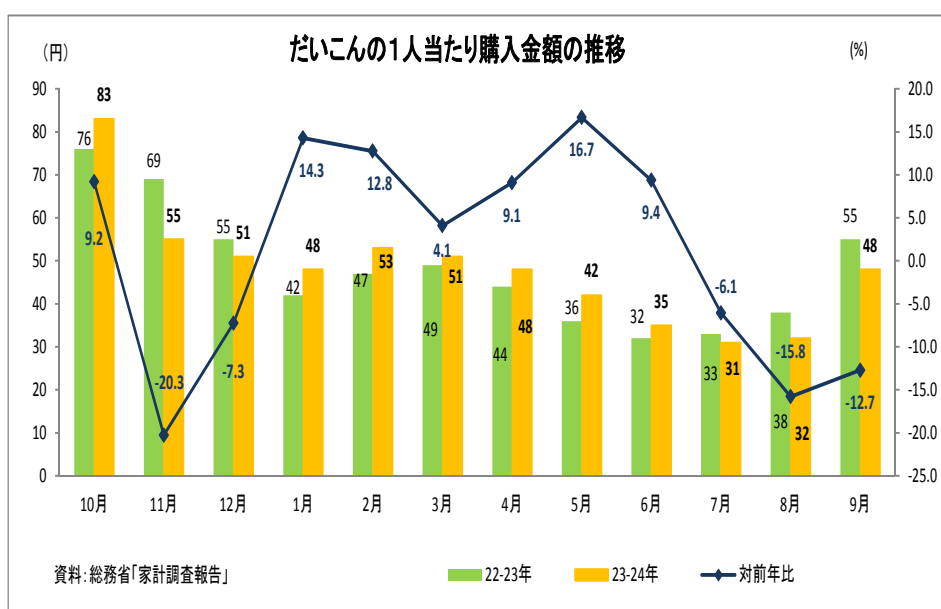
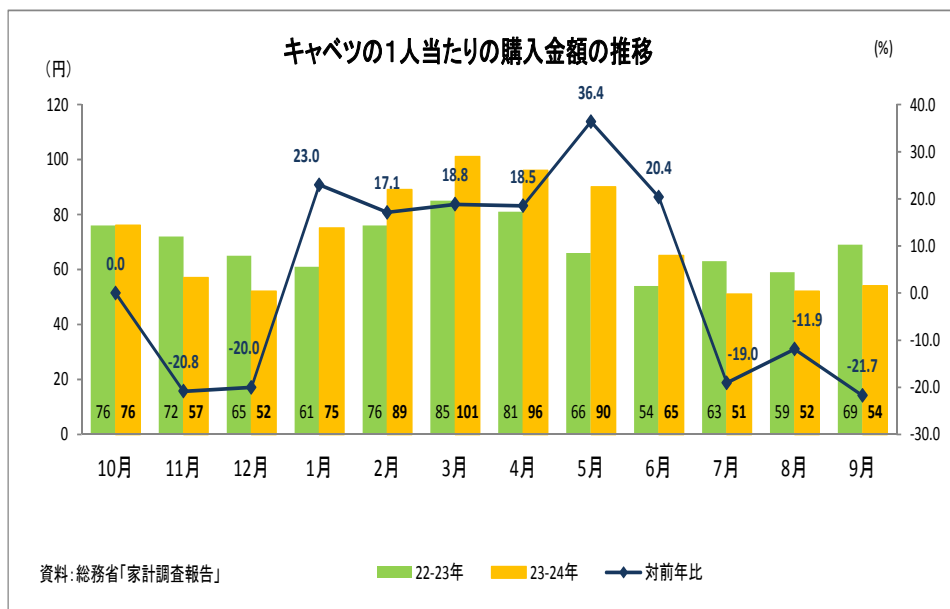
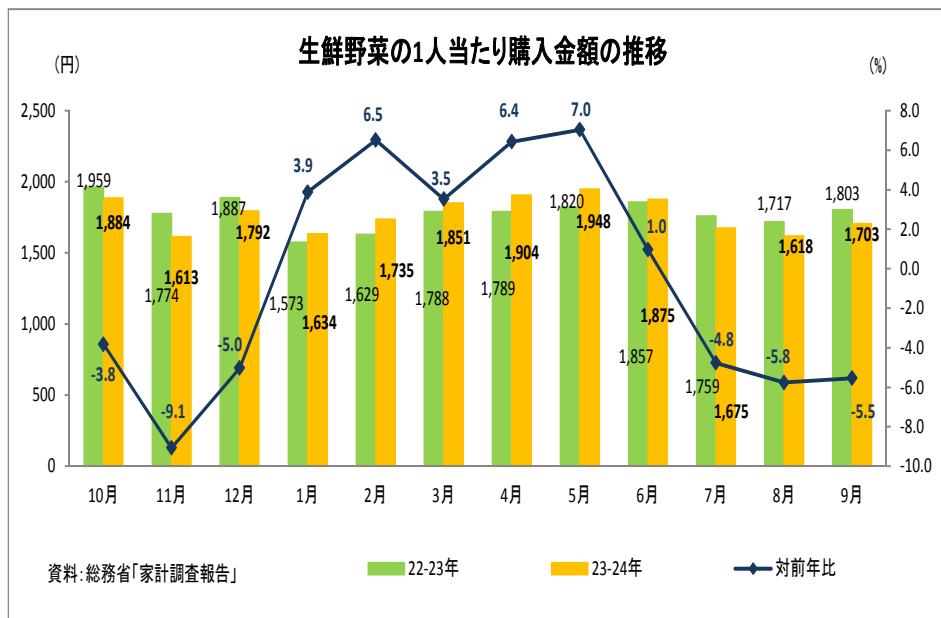
資料:総務省「家計調査報告」

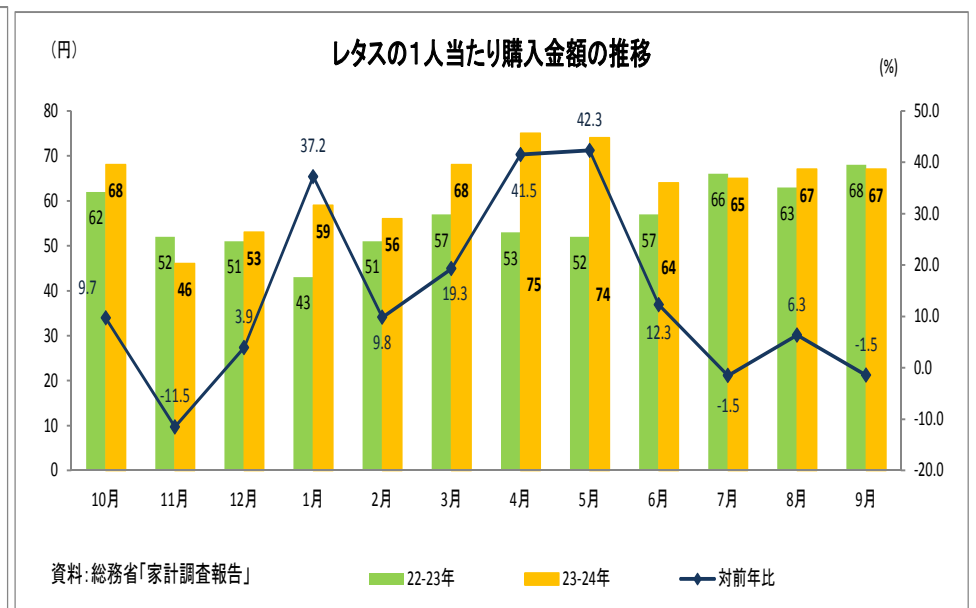
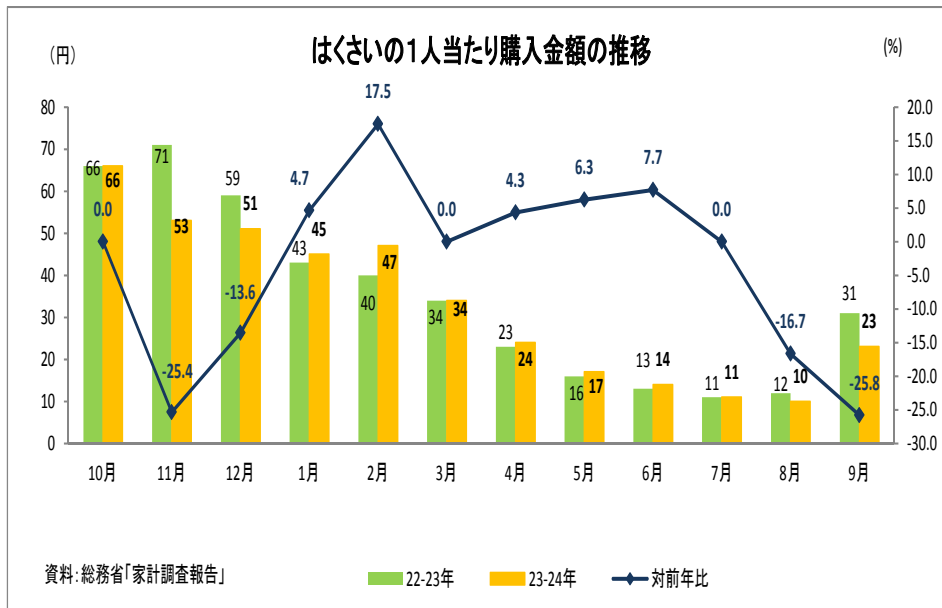
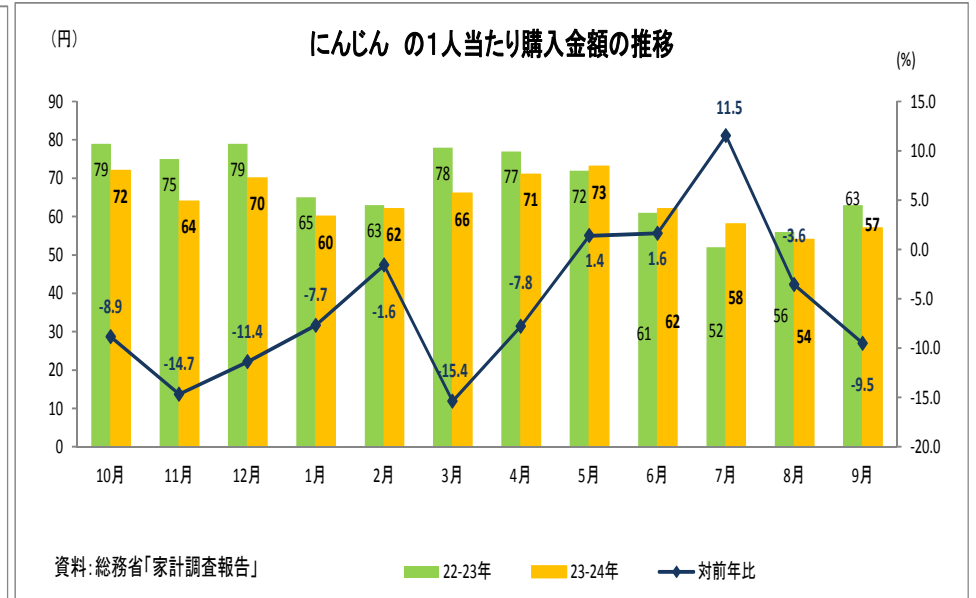
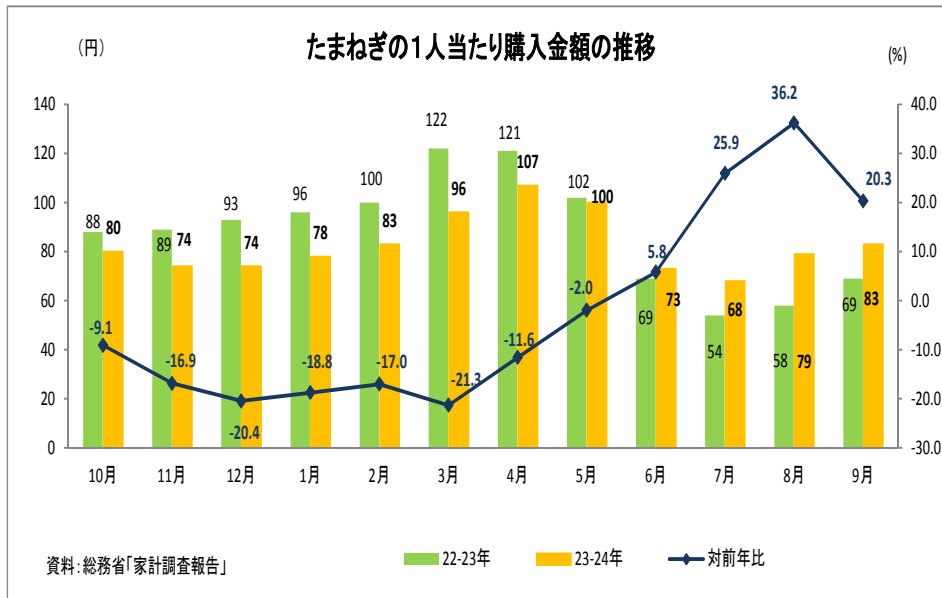
■ 22-23年 ■ 23-24年 ◆ 対前年比

2 1人あたり購入金額の推移

・生鮮野菜の購入金額は、前年が猛暑の影響により高値であったこともあり、10～12月は前年を下回って推移。

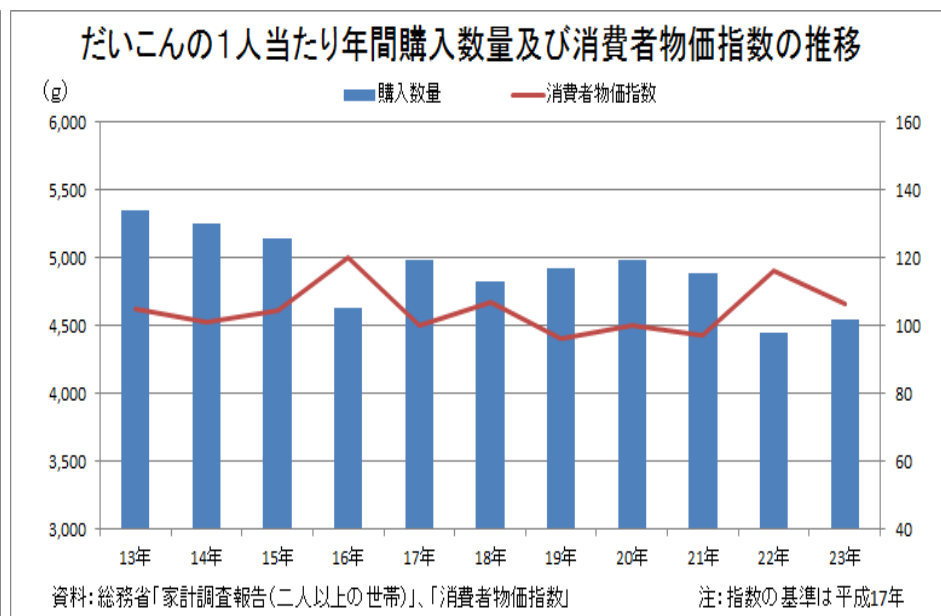
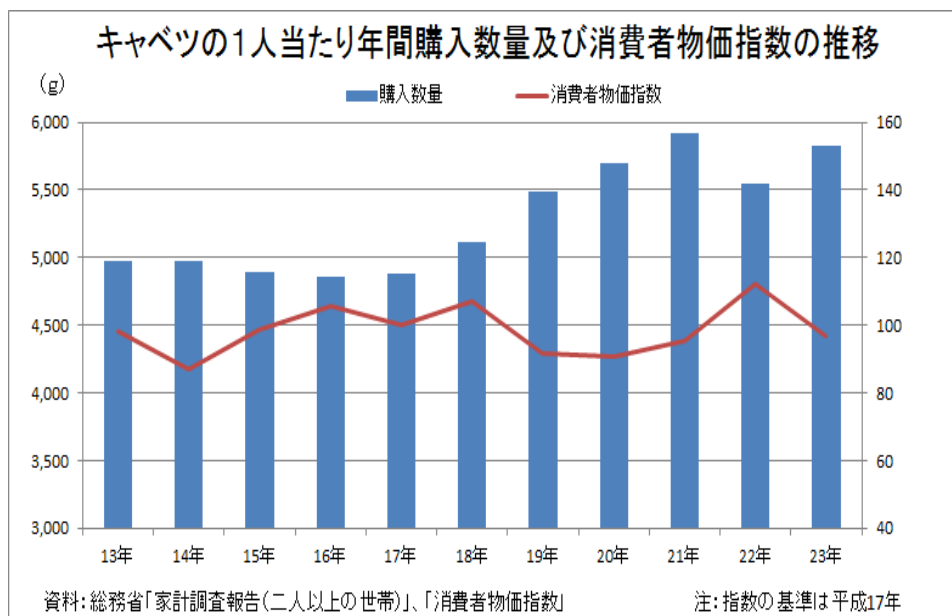
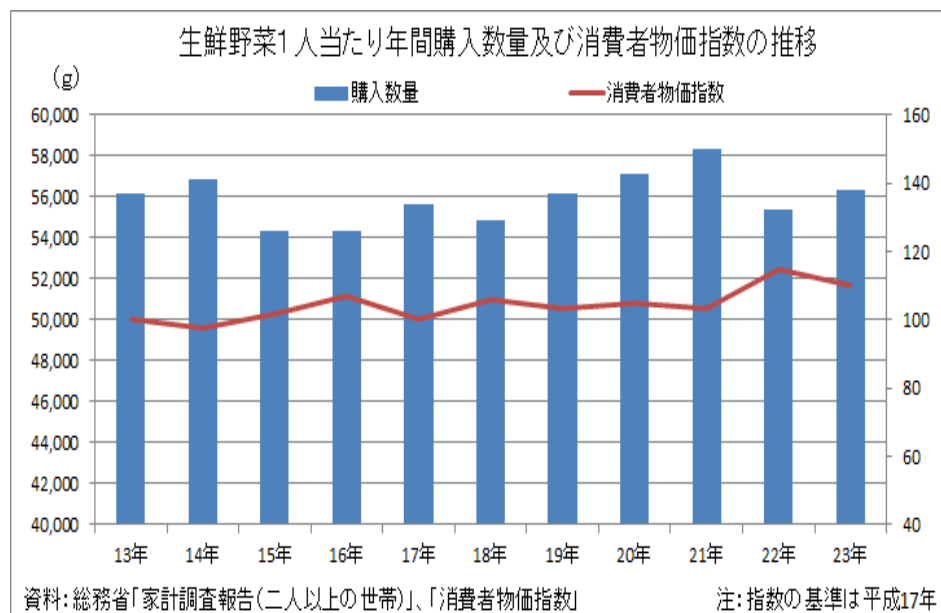
・1～6月は低温、少雨等の影響により前年を上回ったものの、7～9月は、好天により野菜の生育が順調であったことから安値で推移したことに加え、猛暑により8月の購入数量が減少したことから、前年を下回った。

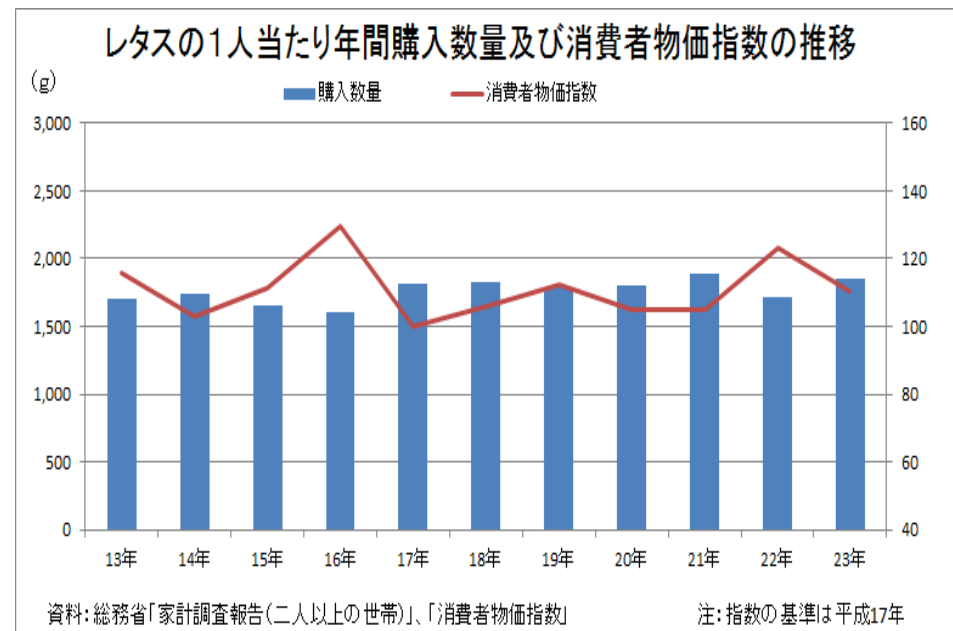
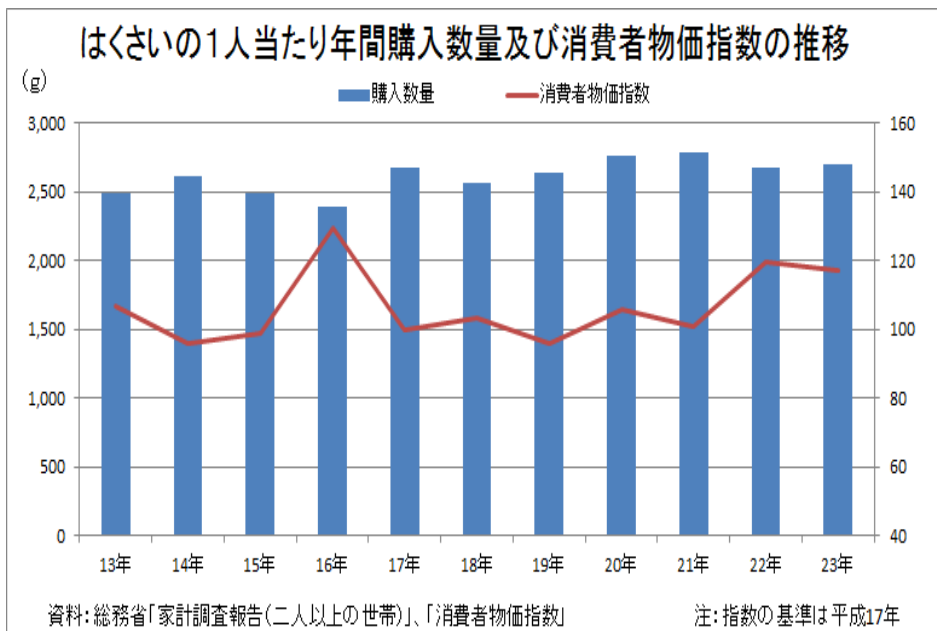
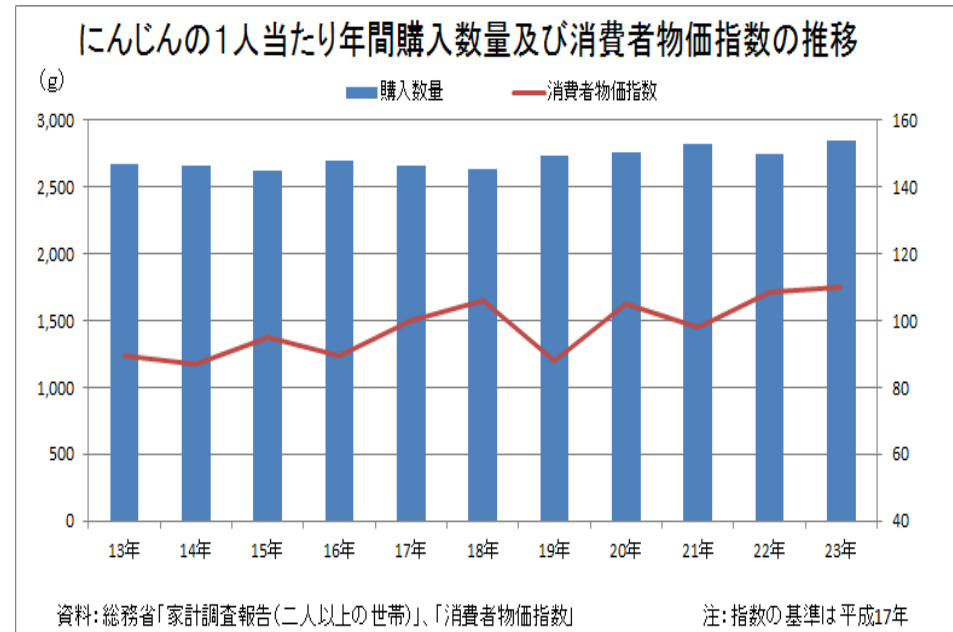
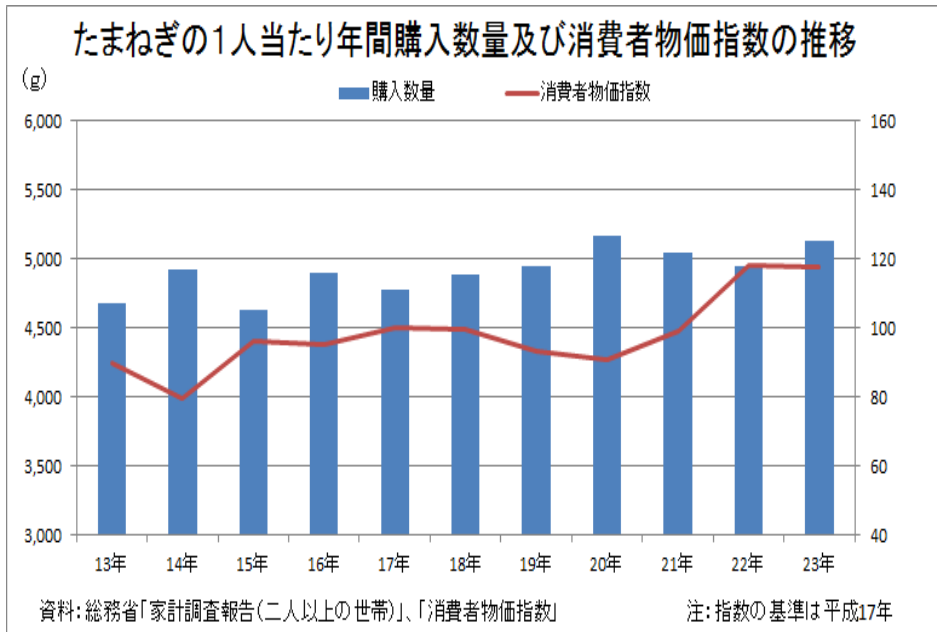




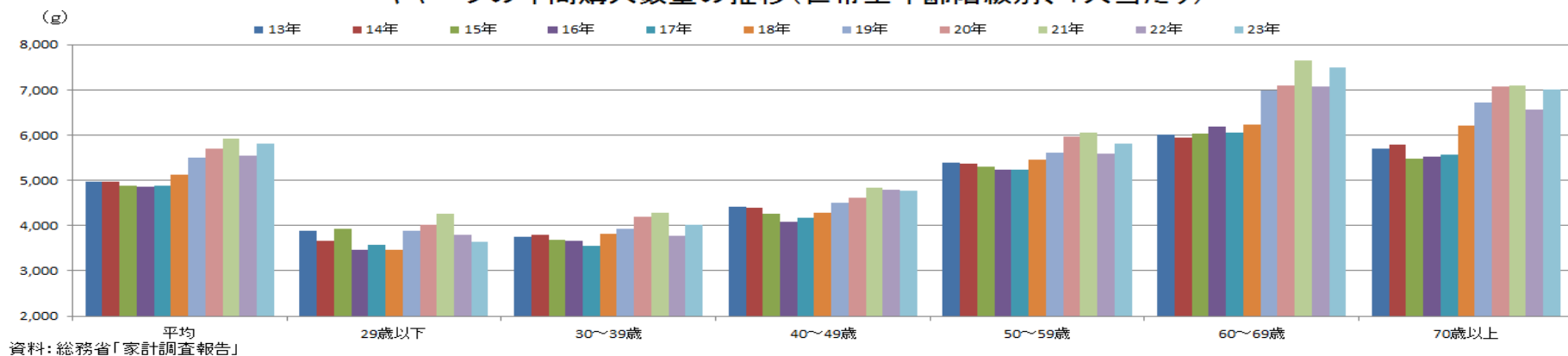
3 1人当たり年間購入数量等の推移

- ・生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は、年によって変動が見られるが、消費者物価指数が高くなると、購入数量が少なくなる傾向がみられる。
- ・品目別に見ると、キャベツは増加傾向となっており、特に60歳以上の年齢階級で増加している。
- ・だいこんは減少傾向で推移しており、特に50歳以上の年齢階級で減少幅が大きい。また、49歳以下の年齢階級の購入数量が極端に少ない。

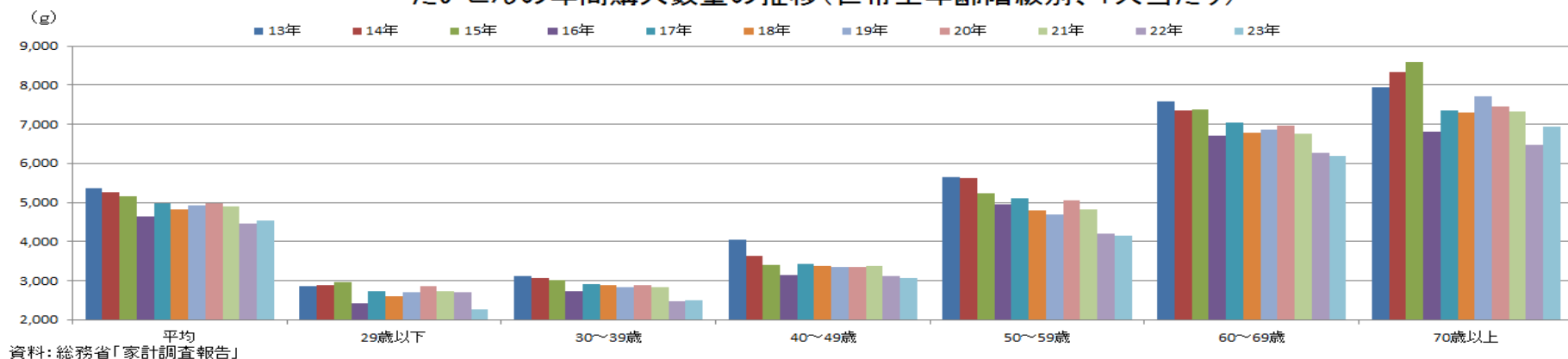




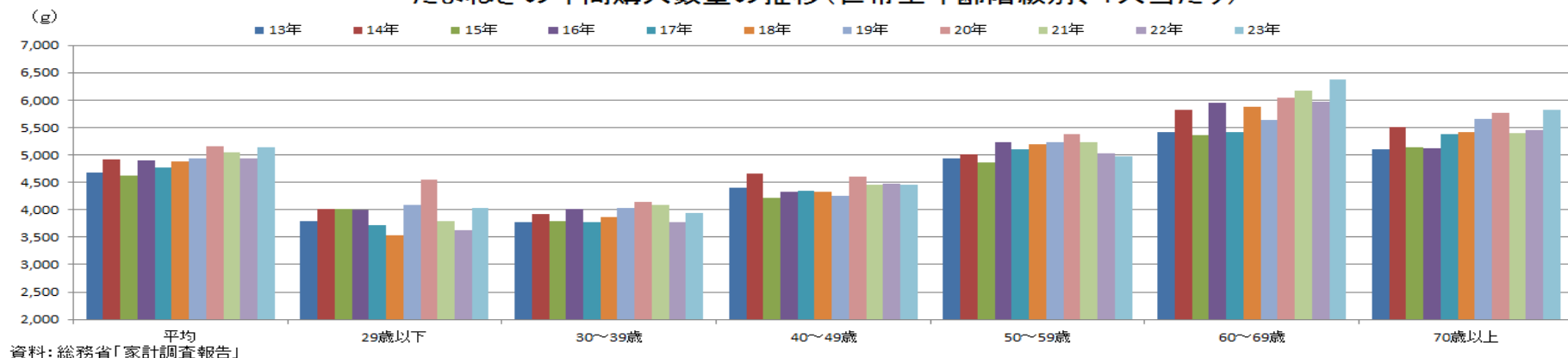
キャベツの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



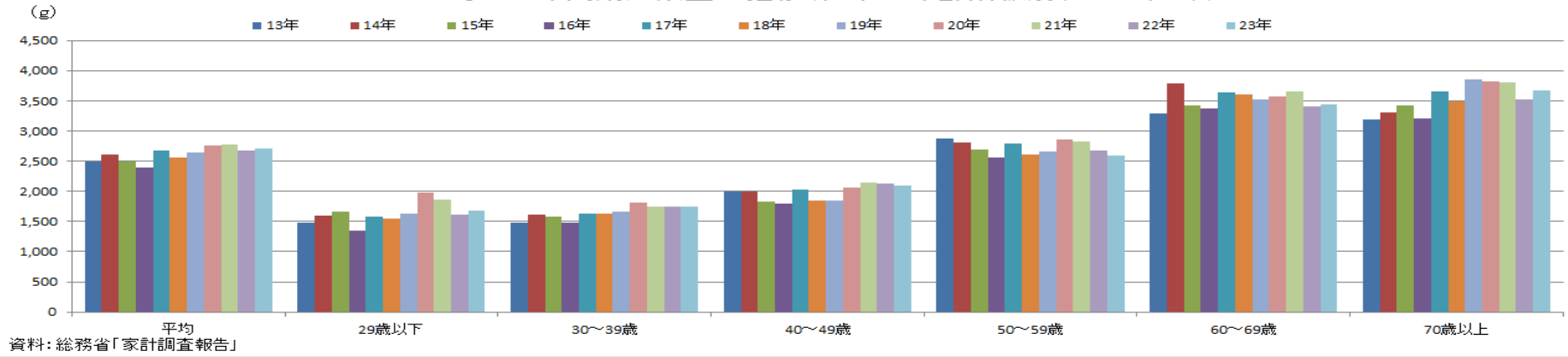
だいこんの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



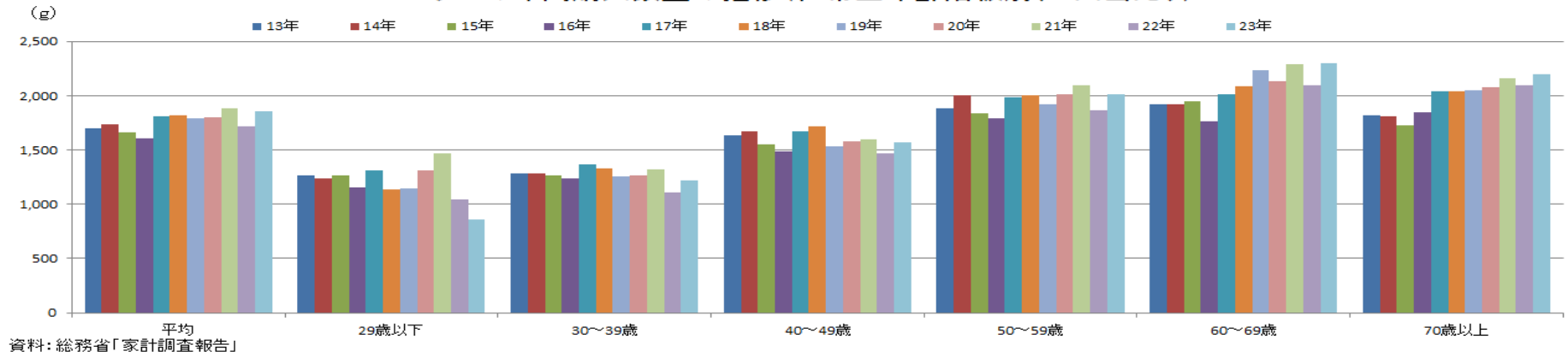
たまねぎの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



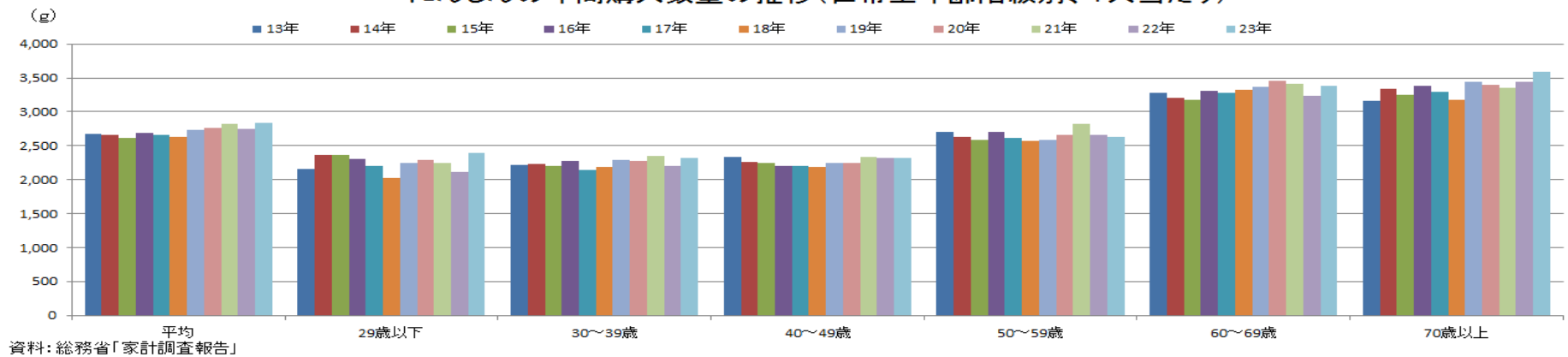
はくさいの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



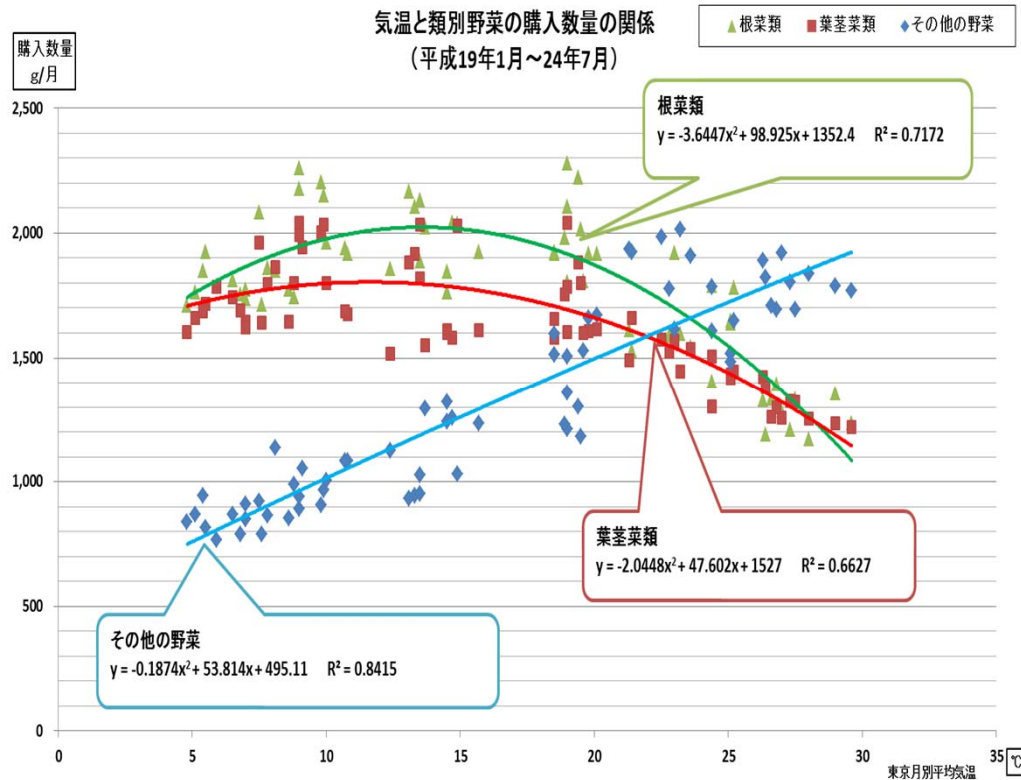
レタスの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



にんじんの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



気温と野菜の消費との関係



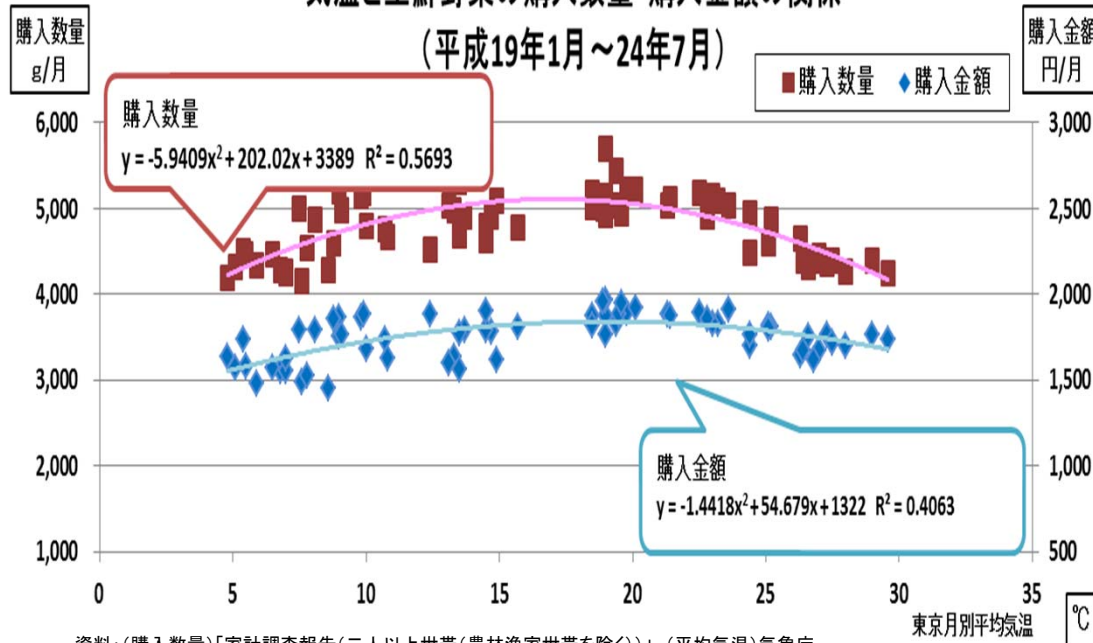
今年は、二十四節気で暑さがおさまるところとされる「処暑(しよしよ)」を過ぎてもなお厳しい残暑が続いている。「猛暑で野菜の消費が減少している。」と言われているが、気温は、野菜の生産はもちろん、野菜の消費にも影響を与えている。

大消費地である東京の平均気温と、家庭での生鮮野菜の購入数量や購入金額の関係を見ると、気温が高くなるにつれて購入数量、購入金額とも増加するが、一定の気温よりも高くなると、いずれも減少している。

このうち、購入数量について、葉茎菜類、根菜類とその他の野菜に分けて見ると、葉茎菜類と根菜類は、一定の気温よりも高くなると、購入数量が減少する。特に、根菜類はその程度が大きい。根菜類は煮炊き調理が多く、暑くなると特に敬遠されるようになるのではないかと考えられる。

気温と生鮮野菜の購入数量・購入金額の関係

(平成19年1月~24年7月)



資料: (購入数量)「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」、(平均気温)気象庁

注)各類別に含まれる主な野菜は以下のとおり

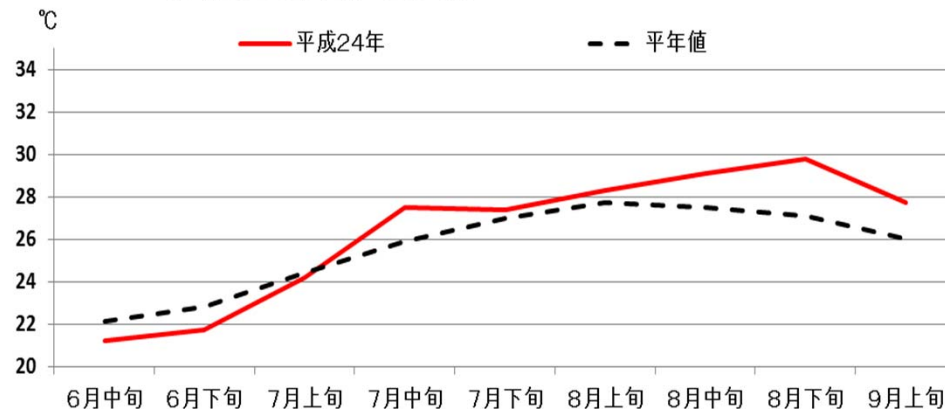
- ① 葉茎菜類 : キャベツ、ほうれんそう、はくさい、ねぎ、レタス、ブロッコリー、もやし等
- ② 根菜類 : かんしょ、ばれいしょ、さといも、だいこん、にんじん、ごぼう、たまねぎ、れんこん、たけのこ等
- ③ その他 : さやまめ、かぼちゃ、きゅうり、トマト、なす、ピーマン、生しいたけ等

一方、その他の野菜は、気温が高くなると購入数量が増加し、葉茎菜類や根菜類と違った傾向を示している。果菜類やかぼちゃが夏野菜として旬を感じられることや、トマトやきゅうりがサラダ等として非加熱調理で食べられることが、暑い中でも需要をけん引しているのではないかと考えられる。

今年の夏の東京の平均気温は、例えば8月が平年に比べて1.7℃高いなど、高めに推移しており、このことが葉茎菜類や根菜類の購入数量の減少に拍車をかけ、キャベツやはくさい等の価格の低下の要因のひとつとなったのではないかと考えられる。

東京における旬別平均気温の推移

(平成24年6月中旬~9月上旬)



資料: ペジ探(原資料)「気象庁」

4 小売価格の推移

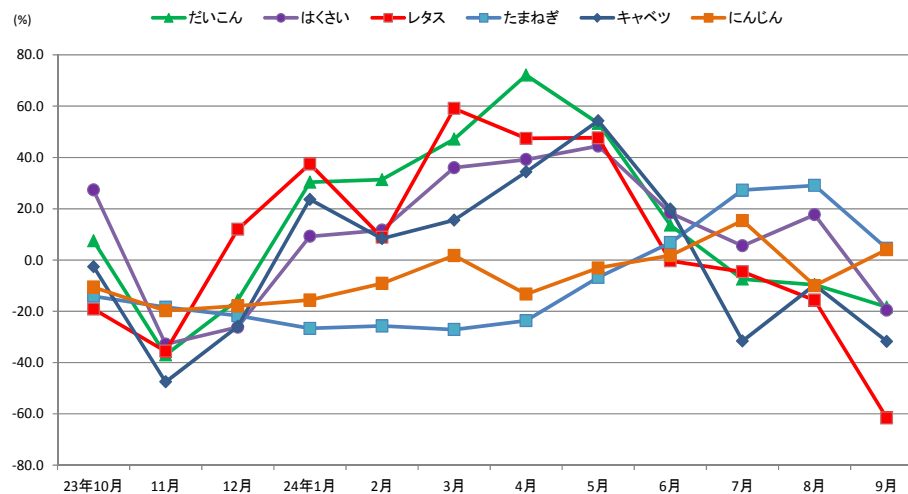
・野菜6品目の小売価格は、10～12月は、一部の品目を除き、猛暑の影響により高値だった前年を下回った。

・キャベツ、だいこん、はくさい及びレタスは、1～6月は、低温、少雨等の影響による生育停滞により出荷量が伸びず、前年を大きく上回った。7～9月は、好天に恵まれたことや作型の変更により出荷量が増えたことによりキャベツ及びだいこんは、前年を下回った。また、はくさい及びレタスは、昨年9月は、長野県で病害が発生した影響により高値であったことから、前年を下回った。

・たまねぎは、10月以降、北海道産の出荷が不作であった前年を上回ったことから、価格は前年を下回った。6～8月は、府県産の不作により前年を上回った。

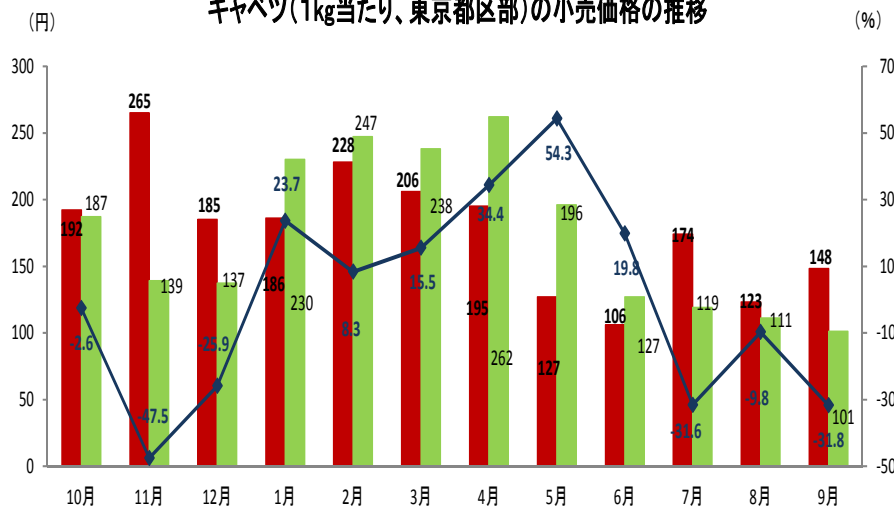
・にんじんは、10～5月は、主産地の生育が順調であったことから、概ね前年を下回って推移した。6～7月は、主産地の低温による生育遅れの影響から前年を上回ったものの、8月は、好天により生育が回復して出荷量が伸びたことから、前年を下回った。

野菜6品目の小売価格(1kg当たり、東京都区部)対前年同月比の推移



資料:総務省「小売物価統計調査」

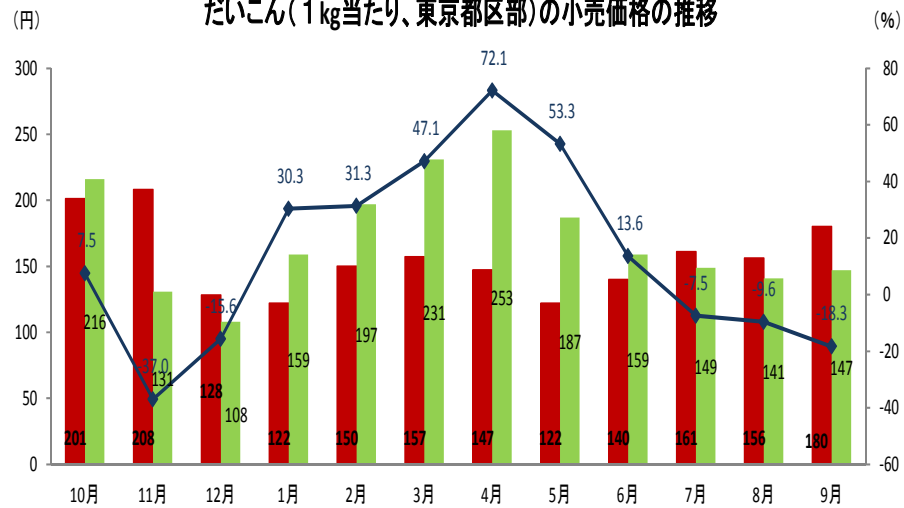
キャベツ(1kg当たり、東京都区部)の小売価格の推移



資料:総務省「小売物価統計調査」

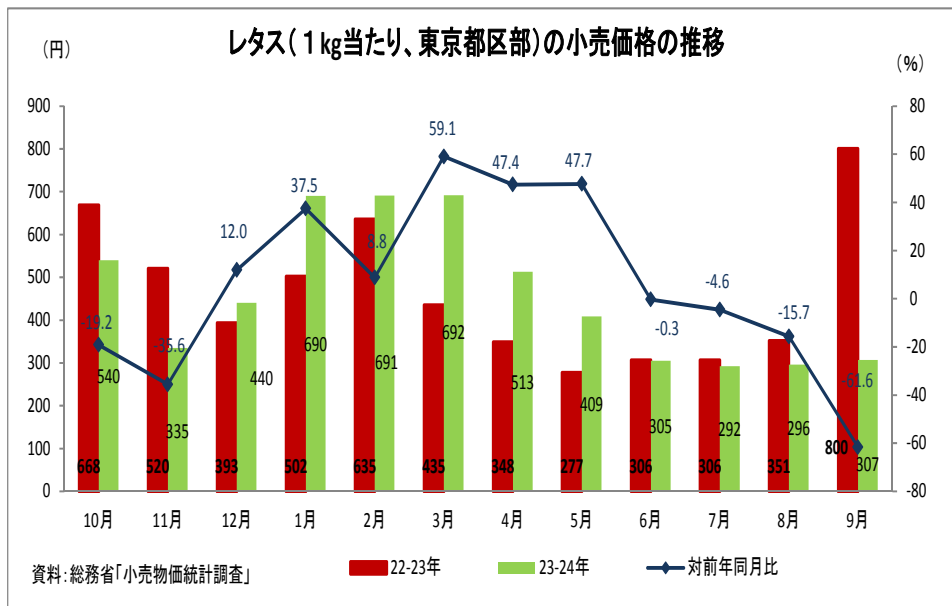
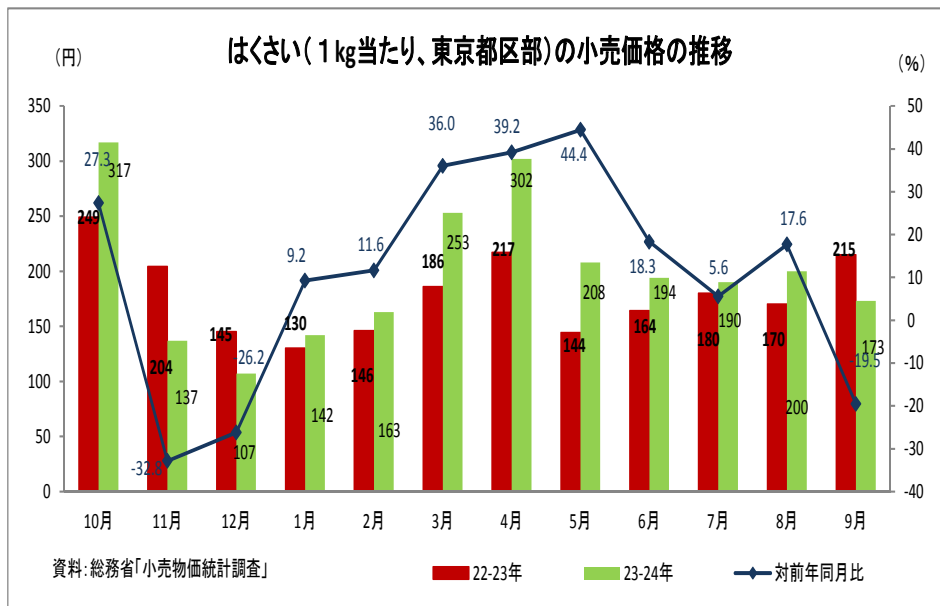
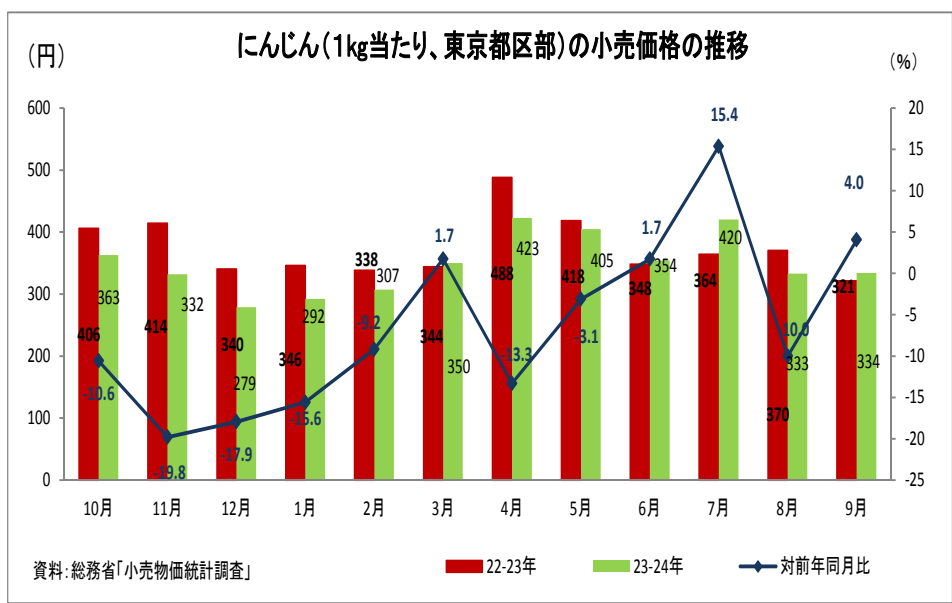
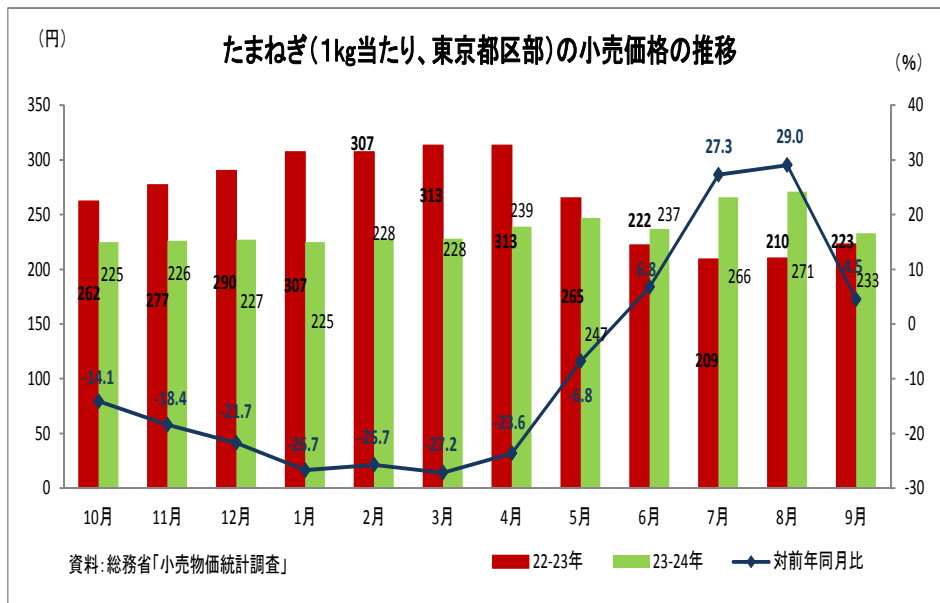
■ 22-23年 ■ 23-24年 ◆ 対前年同月比

だいこん(1kg当たり、東京都区部)の小売価格の推移



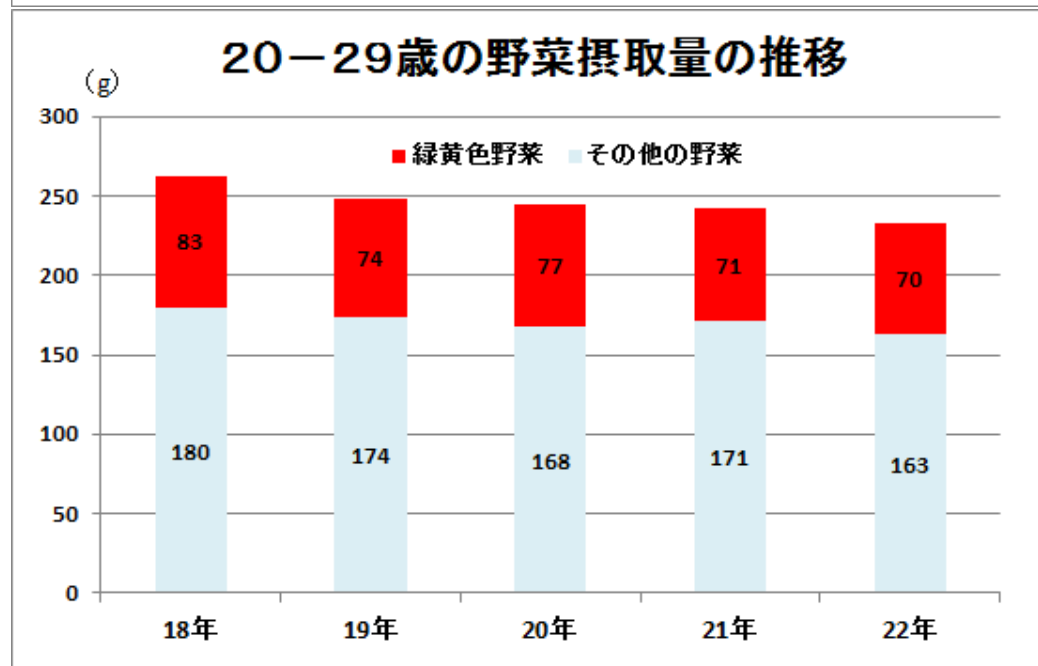
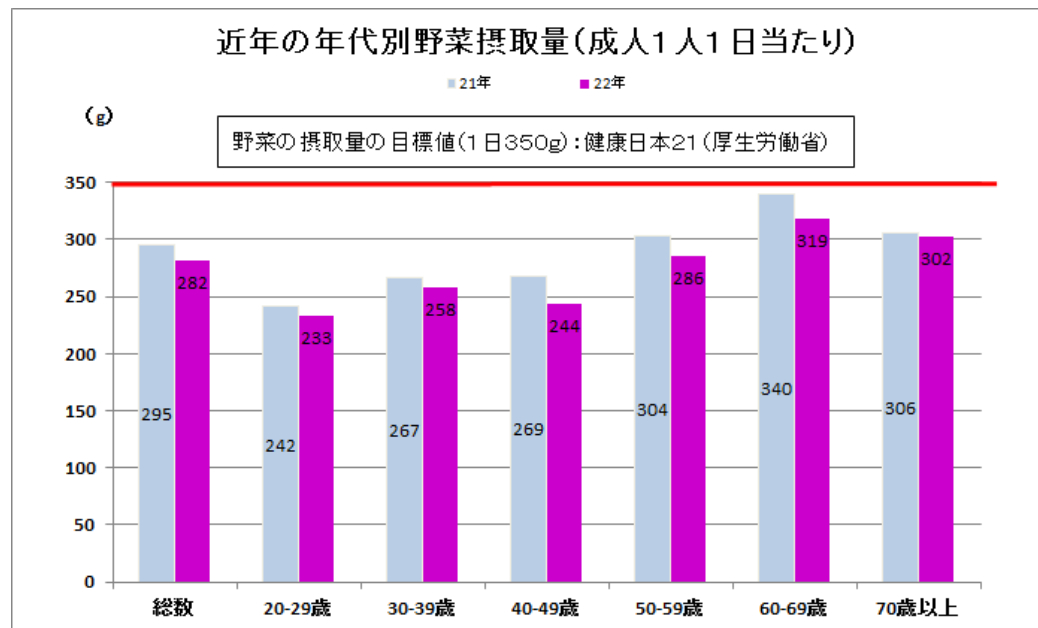
資料:総務省「小売物価統計調査」

■ 22-23年 ■ 23-24年 ◆ 対前年同月比



5 野菜の年齢階級別摂取量

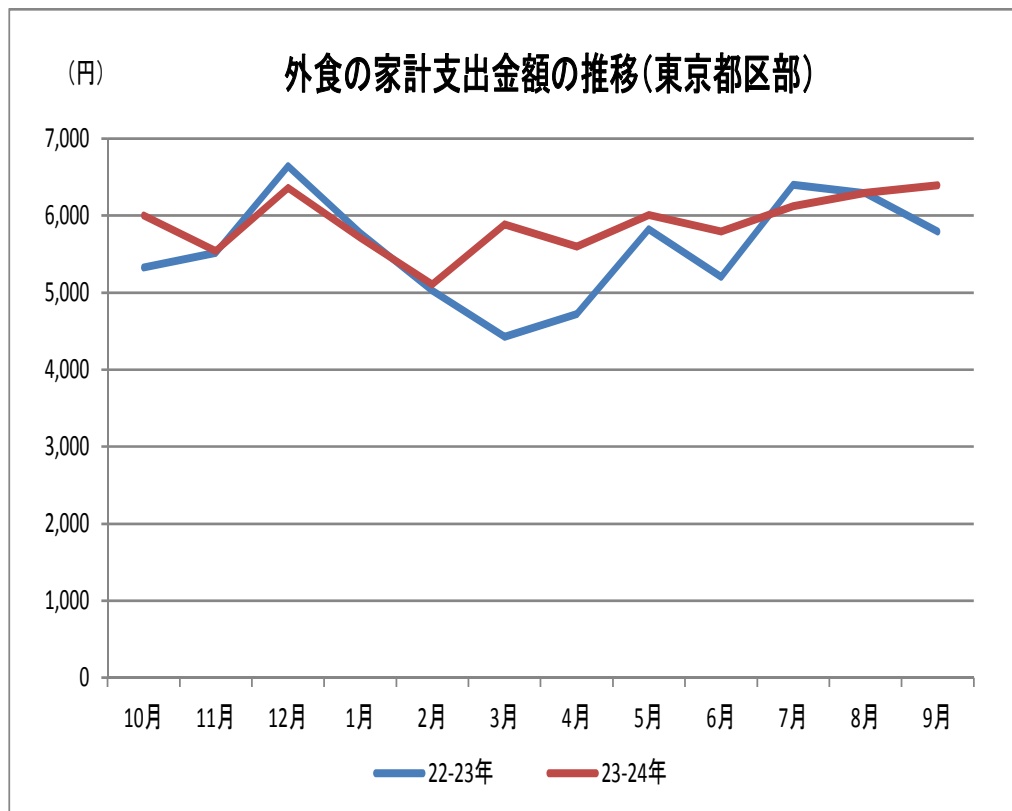
- ・平成22年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、全世代において前年を下回った。依然として、20代、30代及び40代の摂取量が少ない水準となっており、特に40代の摂取量の減少が著しい。
- ・摂取量が一番少ない20代の野菜摂取量は、年々減少傾向となっている。



資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査結果」

6 業務用需要の推移

(1) 外食の家計支出の推移



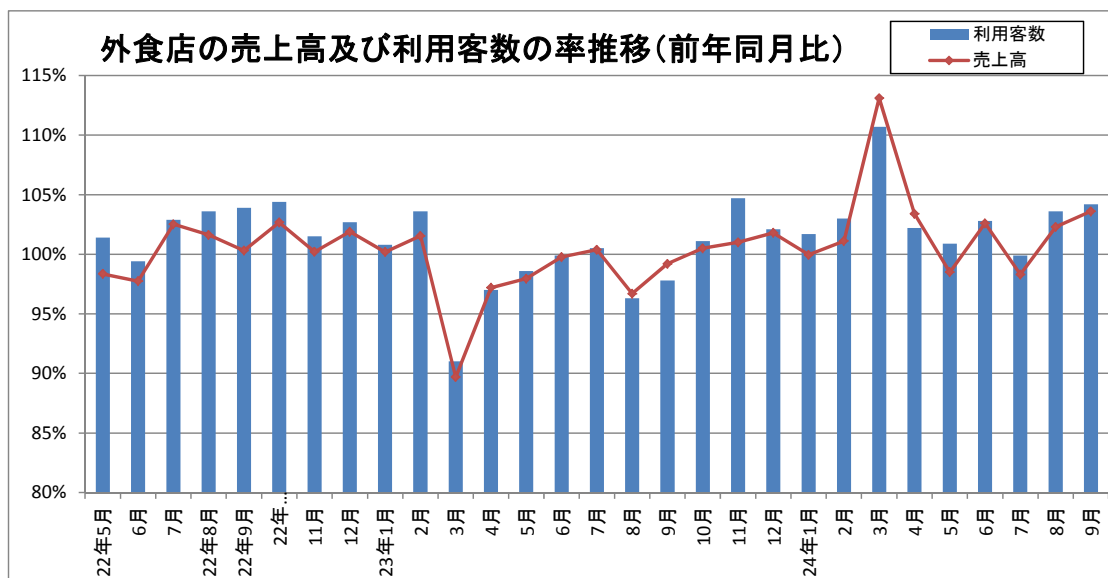
家計調査(東京都区部)

品目分類	23.9支出金額	24.9支出金額	対前年同月比
世帯人員	3.02	2.89	-
消費支出	307,529	301,831	98%
食料	78,324	76,998	98%
外食	17,497	18,486	106%
消費支出に占める割合(%)	5.7	6.1	108%
食料に占める割合	22.3	24.0	107%

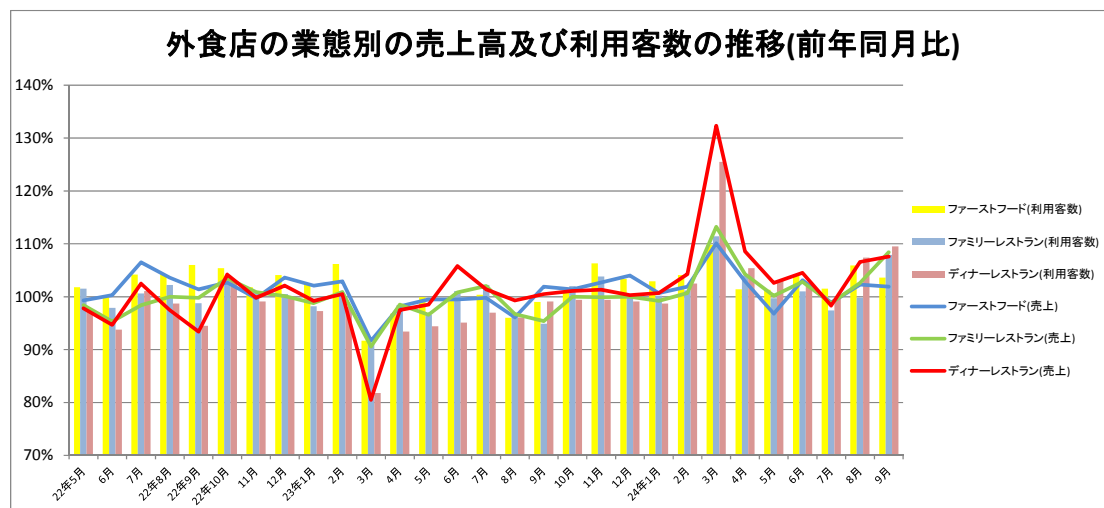
・9月の1人当たりの外食に対する家計支出金額は、残暑が追い風となり、ビアガーデンやアイスクリームが好調であったため、対前年同月比106%となっている。

資料：総務省「家計調査(二人以上の世帯、東京都区部・全国)」

(2) 外食店の売上高及び利用客数の推移



・外食店の売上高及び利用客数は、震災の影響で前年が少なかったこともあり、平成24年1月以降、ほぼ前年を上回ったが、7月は、オリンピック開催による「外食控え」や天候等により、売上高、利用客数ともに前年同月を下回った。9月の売上高は、対前年同月比103.6%、利用客数は同104.2%となった。



・業態別に見ると、ファーストフードは、2月以降、売上高、利用客数ともに前年を上回って推移していたが、5月及び7月の売上高は前年をやや下回った。ファミリーレストランは、売上高、利用客数とも3月を除き、概ね前年並みとなったものの、7月は前年をやや下回った。ディナーレストランは、2月以降、7月を除き、売上高、利用客数ともに前年を上回って推移している。

資料：社団法人日本フードサービス協会「全店時系列データ」

7 今後の天気

1. 向こう1ヶ月(10月27日～11月26日)

- ・気温は、2週目は、北日本では高くなり、東日本では平年並みか高くなり、西日本では平年並みの見込みで、3～4週目は、北日本では平年並みか高くなり、東日本では高くなり、西日本では平年並みの見込み。
- ・降水量は、北日本では多くなり、東日本の日本海側では平年並みで、東・西日本の太平洋側では平年並みか多くなり、また西日本の日本海側では多くなる見込み。

2. 11月～1月

○ 11月

- ・気温は、北・西日本では平年並みで、東日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北・東日本の日本海側では平年並みで、北・東・西日本の太平洋側では平年並みか多くなり、西日本の日本海側は多くなる見込み。

○ 12月

- ・気温は、北日本では平年並みで、東日本では高くなり、西日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北日本及び東日本の太平洋側が平年並みで、東日本の太平洋側及び西日本の日本海側が多くなり、西日本の太平洋側では平年並みか多くなる見込み。

○ 1月

- ・気温は、北・東・西日本では平年並みの見込み。
- ・降水量は、北・東・西日本では平年並みの見込み。

3. 12月～2月

- ・気温は、北日本では平年並みで、東・西日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北日本では平年並みで、東日本では平年並みか少なく、西日本では平年並みか多くなる見込み。

4. エルニーニョ/ラニーニャ現象

- ・夏にかけて発生したエルニーニョ現象は弱まりつつある。
- ・今後の冬にかけて、エルニーニョ現象が持続する可能性と、平常の状態となる可能性が同程度に高い。
(エルニーニョ現象発生時の日本の冬(12～2月)の平均気温は、東、西日本及び沖縄、奄美で高い傾向がある。)

出典：「全般1ヶ月予報解説資料(平成24年10月26日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(11月～1月)解説資料」(平成24年10月25日気象庁地球環境・海洋部)

「全般寒候期(12～2月)予報解説資料(平成24年9月25日気象庁地球環境・海洋部)

「エルニーニョ監視速報(No.241)」(平成24年10月11日気象庁地球環境・海洋部)

(参考)

◎1ヶ月(10月27日～11月26日)予報に見る確率

気温	1週目(%)			2週目(%)			3～4週目(%)		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	10	30	60	20	30	50	20	40	40
東日本	30	50	20	20	40	40	30	30	40
西日本	50	40	10	30	40	30	30	40	30
沖縄・奄美	70	20	10	40	40	20	40	30	30

	気温(%)				降水量(%)			日照時間(%)		
	低	並	高		少	並	多	少	並	多
北日本	20	30	50	日本海側	30	30	40	30	40	30
				太平洋側	20	30	50	40	40	20
東日本	20	40	40	日本海側	30	40	30	30	40	30
				太平洋側	20	40	40	40	30	30
西日本	40	30	30	日本海側	30	30	40	40	30	30
				太平洋側	20	40	40	40	30	30
沖縄・奄美	50	30	20		30	30	40	30	40	30

◎3ヶ月(11～1月)予報に見る確率

気温	3か月			11月			12月			1月		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	30	30	40	20	30	50	30	40	30	30	40	30
東日本	20	40	40	20	40	40	30	30	40	30	40	30
西日本	20	40	40	30	30	40	20	40	40	30	40	30
沖縄・奄美	30	30	40	40	30	30	20	40	40	30	30	40

降水量		3か月			11月			12月			1月		
		少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	30	30	40	20	40	40	30	40	30	30	40	30
東日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	20	40	40	20	40	40	30	30	40	30	40	30
西日本	日本海側	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30	40	30
	太平洋側	20	40	40	20	40	40	20	40	40	30	40	30
沖縄・奄美		20	40	40	30	30	40	20	40	40	30	30	40

注:「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較

出典:「全般1ヶ月予報解説資料(平成24年10月26日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(11月～1月)解説資料」(平成24年10月25日気象庁地球環境・海洋部)

◎ 寒候期予報(12月～2月)に見る確率

		気温 (%)			降水量 (%)			降雪量 (%)		
		低	並	高	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	30	40	30	30	40	30	30	40	30
東日本	日本海側	20	40	40	40	30	30	40	40	20
	太平洋側	20	40	40	30	30	40	40	40	20
西日本	日本海側	20	40	40	30	40	30	40	40	20
	太平洋側	20	40	40	30	30	40	40	40	20
沖縄・奄美		20	40	40	20	40	40			

注:「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較

出典:「全般寒候期予報解説資料」(平成24年9月25日気象庁地球環境・海洋部)